

教育実習の充実にに向けた取り組み

—事業報告—

宮井清香 亀田隼人 松本直巳 宮坂美帆子 奥住秀之 村山拓

I はじめに

東京学芸大学附属特別支援学校（以下、本校）における学校経営方針を受けて、教育実習の充実にに向けた取り組みを行った。

今年度は昨年度同様に、本学の特別支援教育専攻の学生に対する「必修実習」と教育系全課程の学生に対する「選択実習」を実施した。以下に、今年度の教育実習に関する各取り組みを報告する。

II 各取り組みについての報告

1. 事前事後指導の実施

本学においては、前年度に引き続き、4年次前期に、特別支援学校で教育実習を行うために必要な基本的態度、知識、技能を獲得することをねらいとした「特別支援学校教育実習事前事後指導」が設定された。内容は大学での講義、本校での観察実習、プレ実習、ポスト実習であった。

1) 大学での講義

学校や各学部の特徴や様子、授業の意義、特別支援学校の学習指導案の書き方などについて理解することを目的として行った。4月の下旬から5月の中旬にかけて、本校の各学部主事や教育実習担当教員が大学に出向いて講義を行った。今年度は、特別支援学校の指導案の書き方について、本校の教育実習担当教員が講義をした後、学生が実際に学習指導案（略案）を書く機会を設けた。

2) 観察実習の実施

観察実習は、学生自身が本校の授業を観察することを通して、本校の雰囲気や活動の様子、幼児、児童、生徒の各ライフステージにおける指導やその系統性について学習することを目的とし、大学での講義の期間とほぼ同時期に設定した。

必修実習は、幼稚部、小学部、中学部、高等部の授業観察日（4日）と、全学部を通しての授業観察日（1日）と、「春のレクリエーション大会」の予行と当日（2日）、の計7日を設定した。「春のレクリエーション大会」は原則として全員参加とし、他の観察実習日は2日以上参加を促した。「春のレクリエーション大会」以外の設定日の中では、幼稚部の授業観察日への参加が最も多かった。学生は、大学での授業日などを考えて、観察実習に参加する学部を選んでいった。そのため、観たいと考えていた学部を観られなかった学生もいた。また、「春のレクリエーション大会」（予行、当日）については、ほぼ全員が参加した。ただし、大学の授業や就職活動のため、予行に参加できない学生もいた。

選択実習は、「春のレクリエーション大会」、「夕涼み会」、「若竹まつり」という3つの学校行事のうち、2つ以上に参加することを促した。教育実習終了後に学生に対して記入を依頼した「教育実習アンケート」によると、特別支援学校の様子を知れてよかったが、行事についての説明やねらいなどを知る機会がなかったため、

観察する視点を明確にもつことができなかったという声が複数あった。

大学における講義や観察実習を受けた後、学生に対して配属学部希望を提出するように促した。

3) プレ実習の実施

プレ実習は、配属学部授業を見学するだけでなく、実際に授業に参加することで子どもたちとの関係づくりを行うことを目的として設定した。指導教員から直接指導を受けながらより具体的に子どもたちの実態を把握し、実習期間に自分自身が行う授業についてのイメージを膨らませてほしいと考え、配属学部決定後から教育実習開始までの約2ヶ月間を設定した。プレ実習では、学生各人が指導教員と連絡を取り合いながら日程を調整した。プレ実習後に、その日の「記録レポート」を作成して、学生各人の指導教員、および大学の「事前事後指導」担当教員に提出し、必要に応じて指導を受けた。

学生がプレ実習で来校する日数は、2ヶ月間を通して、3～4日の参加が多かった。教育実習終了後に学生に対して記入を依頼した「教育実習アンケート」によると、必修実習を受けた学生の場合、教員採用試験を控えているという理由で、あまり参加できなかったという声が複数あった。

4) ポスト実習の実施

ポスト実習は、実習期間に全員が行う研究授業や授業研究会を通して学びとったことを次につなげる実践の場として、実習期間後に設定された。プレ実習と同様、学生が自分の意思で指導教員に連絡をし、日程を組むという仕組みとした。必修実習を受けた学生は、他の教育実習や卒業論文などの理由で参加しなかった。選択実習を受けた学生は卒業を間近に控えていたため参加が難しい状況であった。ただし、各学部の校外学習や卒業式などの行事に参加する学生は数名いた。

2. 本実習の実施

必修実習が3週間、選択実習が2週間の設定であった。期間中には、校長、副校長、進路指導主事、養護教諭、栄養教諭、相談部専任による講話を行った。実地授業では、日々の授業の他に、1人1回の研究授業および授業研究会を実施した。

必修実習の場合、実地授業では、教育実習2日目に示範研究授業および示範授業研究会を実施した。今年度は、高等部の「作業学習（農耕班）」を対象として実施した。学生が、授業を考える際に明確な視点をもったり、研究授業や授業研究会のイメージを具体的にしたりすることを目的として設定した。

以上の他に、今年度は、大学から教育実習DVD制作の依頼を受け、撮影に協力した。

Ⅲ 今後に向けて

教育実習終了後に学生に対して記入を依頼した「教育実習アンケート」によると、観察実習やプレ実習は、限られた本実習を充実したものにするために有効であったことを伺うことができた。必修実習、選択実習ともに、本校や大学の授業暦などの関係で十分な日数が確保しにくいという現状はあるが、大学教員と連携しながら教育実習およびそれに向けた指導を進めることができた。

今年度は、本校の教育実習担当を中心に、「教育実習ガイドブック」の改訂に向けた業務を行った。また、本校教員と大学教員で協力をして「教育実習成績報告書（特別支援学校用）」の検討も行った。次年度以降の教育実習もより充実した内容になるように、今後の活用を期待する。

今後は、学生が早い年次から本校に来校できる機会のさらなる充実や、学生が教育実習を通して学ぶべき内容について引き続き検討を行っていく必要がある。